

学級担任のまなざし 29

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.16[Thu]

「靴の表情」

初任の私は、職員朝礼を終え、急いで職員室を出て、一直線に教室へ向かいます。「今日も、がんばるぞ!」と前向きな気持ちで歩きます。途中で「今日の笑顔は?」と階段の踊り場にある鏡に向かってにっこり笑い、笑顔をチェックします。

ある日、学年主任が2階の教室に向かうとき、回り道をしていることに気がきました。(急いでいるはずなのに)と不思議に思い、放課後、尋ねてみました。すると、学年主任はこう言いました。「教室に向かう前に、子どもたちの靴箱を見に行っているんですよ。」「靴箱をですか? きちんと靴が入っているか、チェックしているのですか?」と聞くと、「う〜ん、チェックというより、靴の表情を見に行っているという感じかな。」と言いました。「靴の表情?」ますます不思議な気持ちになりました。

学年主任は、学期の始めには、「靴を靴箱に入れるときは、かかとをそろえましょう」という呼びかけをするそうです。「場を整える」ことを指導するのは大切だと考えているからです。しかし、毎日当番が靴箱をチェックする活動まではしていないとのこと。毎朝靴箱のところに行き、担任としてみんなの靴をざっと眺めるというのです。「光くんの靴は、落ち着いているわね」とか「花子さんの靴、今日も元気いっぱいね」、「太郎くんの靴、何かあったのかな。元気ないわね」、「おやおや、次郎くんの靴、ひっくり返っているわ」など、靴の表情を見て子どもの顔を思い浮かべ、今日どう接するか考えながら教室に向かうのだそうです。「靴で子どもの気持ちが分かるのですか?」と聞くと、「気持ちまでは分からないけど、感じるくらいかな。」と微笑みました。

子どもたちの気持ちが落ち着き、学級の雰囲気よくなると、自然と靴箱の靴も整うのだそうです。靴の表情は分からなくても、明日から真似をしてみようと思いました。